

## 2023 年度第 1 回価格審査会の開催について

2023 年度第 1 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2023 年 4 月 14 日(火) 10:00~12:00
場 所	6 階大会議室
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリnz・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 12 回価格審査会議事録(案) 確認

2023 年度第 1 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」5月号、「Web 建設物価」5月号  ・ 価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（札幌市ほか 27 都市）、セメント（バラ）（札幌市ほか 7 都市）、レディーミクストコンクリート（函館市ほか 58 都市）、再生砕石類（青森市ほか 3 都市）、PHCパイプ（福井市）、燃料油（札幌市ほか 62 都市）ほか。  ・ 価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 一般建築用木材（青森市ほか 45 都市）、コンクリート型枠用合板（全国）、鉄スクラップ（札幌市ほか 57 都市）ほか。
2. 比較資料  ・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	調査頻度 B の資材は年 2 回の調査とのことだが、昨今の値動きの激しい状況を受けて調査回数は見直しているのか。	B 資材は年 2 回の調査であるが、市況動向を監視し必要に応じて調査月以外でも調査を実施している。一例を挙げると B 資材の一般建築用木材は、過去 1 年で 8 回調査を実施し価格変更している。
質問 2	道路用砕石の白石における市況コメントに「災害復旧や太陽光施設関連向けに荷動きは堅調」と記載があるが、この災害復旧とは東日本大震災の復旧工事を指すのか。	東日本大震災ではなく、令和元年台風第 19 号等に係る災害復旧工事を指す。
質問 3	レディーミクストコンクリート大阪地区の値動きは、2020 年 6 月号から横ばいが続いている。この理由は何か。	2019 年 8 月号に大幅に上伸し、それ以降はメーカー値上げがないため横ばいが続いている。
質問 4	鉄スクラップの下落理由は「国際相場下落を受け」とのことだが、どのような背景か。	中国不動産部門の不調を背景に、鉄鋼需要の減少が予想され下落している。鉄スクラップは需要動向が明確でない段階でも、思惑的な動きで価格が変動する傾向がある。
質問 5	レディーミクストコンクリートの市況コメントに、“前年度出荷量の記載有無”や、「協組調べ」「工組調べ」等の引用元の違いが見られる。記載内容や引用元の選択に何か基準はあるのか。	記載内容は状況に応じて選択している。引用元はその地区ごとに得られる情報が異なるため、得られた情報を基に記載している。
質問 6	セメント東京地区における市況コメントに「国内販売量」との記載があるが、対象は東京地区なのかそれとも全国なのか。同様にコンクリート型枠用合板「輸入合板入荷量」の対象も東京地区なのか全国なのか。	セメント「国内販売量」およびコンクリート型枠用合板「輸入合板出荷量」ともに対象は全国である。
質問 7	今月、アスファルト混合物で価格変動した都市がない。どのような状況か。	アスファルト混合物で価格変動都市がゼロとなったのは 21 カ月ぶりである。変動が無かった一番の要因は、主原材料であるストレートアスファルト価格が直近で大幅下落したことである。メーカーは製造コスト上昇を背景とした値上げ交渉を継続しているが、主原材料価格が下落した状況下で交渉が難航し変わらずとなった。

質問 8	<p>情報 BOX 用管路材のコメントに「原材料の値上がりに伴うメーカー値上げが浸透し、上伸」と記載があり、説明では原材料とは樹脂を指すとのことだが、値上がり率がかなり大きいように見られる。上伸は樹脂の影響だけか。</p>	<p>樹脂価格の値上がりと共に、メーカーによる製品の価格体系見直しも同時に行われており、値上がり率が大きくなっている。</p>
質問 9	<p>ガラスについて日銀企業物価指数が今月下旬下落したが、しばらく上伸が続いており、他誌は先月上伸した。建設物価は今月も横ばいであるが、どのような状況か。</p>	<p>2022 年 10 月頃に各メーカーの値上げがあり、以降、値上げ浸透を注視している。ガラスは値上がりに時間を要するケースが多く、過去、値上げ浸透に一年以上要したケースもあった。今月も注意深く調査した結果、強含みではあるものの横ばいであると判断した。</p>
質問 10	<p>異形棒鋼の値上がり理由のコメントに「電力料金上昇に伴うメーカーの値上げ」と記載しているが、過去から上伸傾向が続いていたスクラップ価格ではなく「電力料金上昇」としている理由は何か。</p>	<p>全国的に電力料金が上昇しており、各電炉メーカーが鉄スクラップ価格の変動と切り離して、電力料金上昇を値上げ理由として前面に打ち出していることを受けてコメントを記載した。</p>
質問 11	<p>一般用建築用木材や合板関連の価格が毎月下落している状況にあるが、先行きの見通しはどうか。</p>	<p>一般用建築用木材の値下がりは今後も続くと思われる。国内流通の 7 割ほどを占める輸入材の価格が下げ止まらない状況にある。ウッドショックで値上がりしたアメリカの米松、ヨーロッパのホワイトウッド・レッドウッドの価格はまだ下がっている。一方合板は、過剰な市中在庫が解消する見込みは薄いと認識している。両者ともに下落傾向が続く見通しである。</p>
質問 12	<p>レディーミクストコンクリート旭川は市況文では 4,000 円の上伸だが、価格変動状況の地図では 3,950 円の上伸である。どちらが正しいのか。</p>	<p>表示規格の違いであり、価格変動状況の地図は 18-18-25(20)、市況文は 21-18-25(20)となっている。市況文はその地区のベース規格を代表として記載しているため、北海道では 21-18-25(20)がベース規格、全国的には 18-18-25(20)がベース規格となっている。</p>
質問 13	<p>“名古屋の砂の採取場が枯渇しひっ迫している”という説明だったが、どのような状況か。</p>	<p>名古屋地区は山砂が供給源となるが、良質な砂層が減少しており採取量が伸びていない状況にある。レディーミクストコンクリート需要が旺盛で砂の需給がひっ迫し価格が上伸している状況である。</p>

質問 14	<p>コンクリート型枠用合板の下落については“需要減少による”とのことだが、建設資材物価指数「紙・木製品」における寄与率の下落幅は、土木よりも建築が大きいことが示す通り、コンクリート型枠用合板における土木分野の需要の影響は軽微と言えるのか。</p>	<p>ダムや橋梁などの土木分野における大型構造物では木製のコンクリート型枠用合板だけでなく、鋼製型枠を使用するケースもあり、指数に占める割合も低い。需要動向の土木の影響度合いは建築と比較して相対的に低い。</p>
審議結果	<p>「建設物価」5月号、「Web 建設物価」5月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以 上